



へ13時  
3646  
5

後方より進み下り。箭と投げてゆく。諸軍が背を只一當す。跳薦コスをもろふ。  
事も、氣も、力も、あらむ。事も、氣も、力を、もつて、斧破砕と敵。ひきが斧の内を叫びゆ。手刃と逆さる。穴の千尋の底。浪  
慢。大ハ歎く。勢は、肩掛一派。まことに。坎の中。投落。その身へ仰て、あふ倒れ。  
つ。頭死岩。めぐらす。打くる。忽地。顛碎け。脳あく。ひどく死んで。ぐり。され。諸軍、  
ま。暁ら。頻々。眼で。上り。下り。警き。呆き。かく。仰ち。ぬ。小廝と罵。激。  
割糸と絡。麻索。対。入り。縄。かろ。斧。枝。揚。人。と。ど。る。小怪。じ。ぐ。坎の中  
より。魔風。發。まく。血。吹。あぐる。と。夜霧。の。と。面。と。衣裳。も。眼前。韓紅。  
う。よ。う。よ。う。よ。諸軍を。恐怖。す。主。は。先。ざ。ら。と。逃。ひ。る。小廝。は。後。に。そ  
あ。が。喘。く。口。と。ゆ。く。そ。の。夜。さ。り。小。川。の。宿。所。走。り。く。つ。繼。亡。骸。え。う。り。ね  
と。斧。破。砕。と。敵。と。て。天。明。と。人。と。傭。役。ま。よ。入。食。塚。の。崇。戒。を。貞。賢  
え。と。足。死。せ。る。絶。て。ア。ス。る。の。な。り。己。工。死。ゆ。と。丈。ハ。が。死。廢。の。草。

天鳴

天  
寧  
州  
陽

38-3436

さうはる翁が匣の底より。彼ホシ密書録とす。一と好淫とて。書  
手の聲を怒りと死するものよりよがひうつく。もろ乳武の毛唇を  
急地節ふ瘡りで來く。とくとよじて遂に愈ぎ。果へ癪風よりうば  
こゑをとらへてくやぶ。九月晦日の夜の大風西よりまき。りうち  
我百金の材木を失ひ。おお活業をとどり。衰く。どうびちく小仙づく色  
ゆノど。とくやく舊惡死顧てし。悔く。と徳もろにて還ふ  
所と福。利と骨と。食紙皮と也。強忍れど。とくとて世の経営の懶く。引  
糸までとぞ居て。うね。尾花才三郎は。病負て。足を護まく。縮  
毛少く。守義龍は見送。牧村長通り。うなふ因果塚の崇つて。不  
祥の視て。前車の覆るをとく。後車のあく誠さんや。と。德高を法師  
うよ。仰えあげ。彼硯と進む。せうが義拗耳。側く。殊文よ。敬嘆。かよが是  
不祥の視て。前車の覆るをとく。後車のあく誠さんや。と。德高を法師  
擇く。硯と舊の穴へ返す。且才三郎は先君よ忠あとはをとく。  
とくをとく。今恩天の崇み。とく。スグと。刃よ。終紙用うべ。と惜む。きとば。  
うよ。その子才三郎は。不破郡の目代と。父の金瘡危く。又す。小。年  
旅館へ退む。療養と。加えて。と懇意よ。仰下す。と。尾花親友へ辱す。  
感涙と。持ひ。よど。この日。まご。牧村が宿所へ退す。小。年の夜才三郎へ。徳高多。  
才三郎は失怙の哀よ。恥む。やぐと。入を走じ。母は。生は。妻ふも。じ先祖の墳  
屋。父の亡骸と葬す。一圓不破の宿所。よう。巻よ。詠よ。と。厚福。十月の  
中院。う。尾花が。家よ。物怪つて。あく。夜。あく。梅雨あく。と。夫婦が枕ふ。と  
あく。活駒。こよ。厭鬼れむ。と。長。病著よ。臥ふ。と。疑ふ。と。と。  
あく。か。駒。か。冥。う。べ。と。小。才三郎。と。憂。の中。よ。又。一。届。月。の。怨。き。う  
つ。消息。と。牧村。よ。告。里人。よ。相。諭。ひ。と。修。驗。の。行。者。从。清。末。と。護。應。の。種。少。物。整。

懷つか念殊の音小怨冥の得脱を度哉とどと物怪遂に消散せど活豹  
キモく病痏うつかて今茲も夜暮もと同雲寒を黄昏小尾光が門  
立在す。鉢を乞ふ行僧あつた。小桔杖へその声と便て遠く門よ生す。  
う終人の亡日えち僧宿しゆうなむ。うすくもが家ふ今宵をあらしゆう  
ほへとく。叮囑よ官むけよ。當下才三郎ハ行僧よ對面し。そのる体を熟  
視す。年ふうねころけをだ。道願秀く凡くも。すべその本貫法名  
同ハ行僧答へ。貪道ハ的心と喚ひて。東西のりの幼釋りて。母と妻ひ丈  
別と娘と眷属とて。患難ひづきとあくを。又乃存亡とちくとも。當回よ呻吟  
つ。人の小廝よかりて。患難ちどりよ倍せ。あくと死故あくて。こうすきとみゆ  
殺毛よあく縊ひ。ひととよれうゑすまふ。趨て何を走去て力と投人と  
ある折一個の修驗者忽ちとて推苗め早うて可惜命死ふ失ひて。汝が主も  
事も。即父の仇人おじあくが汝が孝心成神明佛陀隣となりとして。汝が主も  
主も。即父の仇人おじあくが汝が孝心成神明佛陀隣となりとして。汝が主も  
殺毛よあく縊ひ。ひととよれうゑすまふ。趨て何を走去て力と投人と  
りひく。その右へ如此と。緯つまうか説あし汝過世。佛縁あ。出家  
せば夥の人と清度せん。まづまづ山中下りし。といひをあく。転て小服ふう抱き。  
空中小肉丸冲天。瞬の間よ。毛をあくぬ深山のちくゑあく。廻そまぶつ祝鬱  
ませく。名譽的とあひふれ。こと下りし。被修驗者。貪道が推して大丸圓。り  
天地名山到り。ざる所う。その間よ。ひかせ。学向させ。焉く諸の法筵傳す  
聽衆の末座よ。如じか。後又三年。本地垂迹神道の傳授二乘三藏佛傳の  
妙奥服膺あく。渊源と極や。口之。一。そび定よ入る。死滅せんの過未未劫。  
前身後身とあくと。いざ。桃をあく天機を漏も。伏許。かく。今茲も  
亡父の十七回忌。一。そび定よ入る。死滅せんの過未未劫。

さう曾中珍くちを宣ふす。海が勤行既に熟せり。とて下りて別るべし。  
えよ人鬼よ立つて。因と説果成候。有縁のりの死濟度せよ。今ふその時ま  
れど。食止僅びうけより。且年比の高恩報謝せり。  
柳弓が仰へ神後佛後願ふあじゆ。と叮嚀よ請向ふ。師へ莞尔とて笑ふ。  
現世へかひえ。こよみ美濃の仲山。金山彦大神小使となる。凡天夜刀傍は  
ひ南宮房と曰詹是々曩義を放ひ。との孝心誠懃を。神勅を受へる  
事無守義院と見系せば。如此とすまうせり。で餘別紙とぞとて被物と  
ある。とタゞ合瀬林。又其墓の不立。不立。廻七日流經して。叮嚀。菩薩を  
吊ひ文。彼此を券縁。今この門よし食。口。入にて歎詠。とぞばに乃  
教く。云ふ。人匿すと告ぐ。長物ぐらふ。少物と。ソムヤウ。小桔梗。ハ  
シ。脇絆。耳朶側。才三郎。ハコの怪。松坂半ハ信。半ハ疑。ひ忽地。ふらふやう。この初  
顕。物怪。真の怨。冥よあく。と。考。よ。疑心暗鬼。と生むる。と。ア  
マ。宿。の。中。小。二。景。と。生。む。る。が。如。り。ハ。圓。固。の。中。小。入。る。と。之。ハ。誰。ハ。よ。く。脱。ふ。但。夜。ふ。  
地。よ。こ。え。と。ひ。程。よ。も。二。更。の。達。使。ゆ。ふ。そ。小。桔。梗。ハ。客。房。よ。附。草。が。備。く。  
的。ひ。と。睡。ト。セ。そ。の。方。ハ。活。駒。が。枕。方。ス。あ。く。看。病。モ。こ。ろ。役。ふ。才。三。郎。ハ。活。駒。  
病。牀。よ。鄰。居。す。便。室。よ。じ。う。と。立。薦。の。革。と。接。ゆ。べ。く。臂。近。う。壁。よ。掛。り。孤  
燈。の。下。小。箱。界。成。ア。と。と。この。死。ハ。一。つ。流。書。ス。あ。く。と。更。闇。て。冤。鬼。の。生。ア。成  
遲。と。俟。う。と。不。須。復。家。う。岐。義。ハ。も。う。と。と。お。駒。と。救。ひ。て。既。よ。あ。カ。と

遂一び女房渉水うれすと索縁を。世業をもふ著で只虚と日経達ひ。  
御の莊客們機ざるりのとす。情じるりのとすと。母親同柴がま疾候のと。  
面うれじと紙替ど時もや師の下旬よりて。一夕同柴ホア來ゆくと。母  
莊客們俟つて。某甲が宿所へび入り。済水うれ政義がうれ此彼有告  
ゆ外面猛々恩劇く。大山の敵推うせ事く。鄰村を放火と。罵声高處小役  
えく。人食東西逃迷へ。要皆とてよ被騒き。資材雜具をねじ出せ。同柴  
慌忙つ。と宿不泊アトモ。群ぐら人を携引く。往方を定めど走りけり。  
のみとて岐路へ誰よとぞ。母親同柴がかつてぬ。と便よせりく。冒うち騒ぎ  
りよせほとよれ件の騒動起アリ。と。被騒き。呆つ。既よ外房へア  
んとぞ。ち駄が身伏被き。背門口ト。西城投く走る。も駄ハ才能がとじ  
る。牧駄の綵衣はひとう被くる。帶モノノ楚と結びゆべ。黑白のリス  
甲夜闇。喘くぞ走りき。さてこの騒劇と後はやの大山の軍兵よせ事く  
あくと。彼此の山賊ホカのとて流言口く里入來劫。さとひよ紛れ雜具と  
棄ひ。妍き女の子と掠めとト人と計り。山賊ホカ逃逐て。剥きさらす。  
只筆の皮紙とる。どこのか。山賊ホカ。途よく。かの患難と。又。遍う脱れ  
て。ち駄が疲勞あり。資小負。三時が間。六七里を。すすむと志く。そ  
走り。至て。十五日の月を。も。歩るんと。比。園がるの。桃配野紙  
過く。といへば。や間り。何れども。あくと。この時一個の小賊松明。あくと。じて  
逐裏。脛ぐらを。是後。政義。駄を先へ走り。志が。踏。で。まく。そ  
を。を。防ぐ。駄。駄。まく。駄。駄。ひく。たゞ。く。口ひとう。又五七町程の  
し。と。名。よ。月魄斜。昇。正。小。ソ。浩然。足。音。い。を。烈。く  
遂よ。あく。仄。来。院。も。ほ。と。く。よ。骨。の。躍。ま。走。く。人。と。く。不足。



進ます。こゝへまきへる少を。そのもの近く逐蒐す。引ひてとあへば。  
 味嗟と呼びて一丈あたり。まよつて武藏坂とす。  
 打掛と忽地檻と倒る。残えり。きびど  
 外へとまくふ。やうめりと喚ふ声へ疑ふ  
 づをあくぬ岐義。こゝそもいふ。と慌忙き。  
 走つゝアレに引起せど。岐義へ駒と笄。眉  
 間へあさり打込ひ。流る鮮血泉のじく。忽地  
 息絶。過失死ひ。既又夫を害せ。脱ぎ道へに逃す。や哀  
 あ。と声を限らず。活とど。やその甲斐のまじしが。自害せ。やとやふ  
 わ。かくまで罪障海辺方の懃よ死人。ゆゑに死を。そきと甲斐ふ。い  
 里へゆるく人の告守の法則。仕見え。とろひへど生憎。疾よ途残す。あへだ。  
 番崎城ながら。こもじつ里や近く。うらまく。とうとく。樹牆折続らじ。くる。諸  
 折戸のやうす。小まよす。裡よ。燈火の軽さ。人の嘆く音。ぞく。祇羅扉と  
 雉。とおり。嫁す。門難て。屢紙燭よ。彼此を。  
 戸二枚用をまつて。障子よ。人の新あす。こよて。コヅム。を告。るかを  
 う。う。か。と。り。嫁す。門難て。屢紙燭よ。彼此を。  
 熟視く。ちぬよ。驚き。ある。法。す。野干玉のくづき  
 夜よ。よ。ふ。あ。と。あ。と。で。走り。く。親里を。き。う。ぬ。  
 ひ。じ。そ。恥。れ。障子。み。う。る。お。オ。三。や。一。お  
 う。と。う。ん。仇。一。夫。小。仇。枕。う。果。くる。は。ざ。ぬ。を。  
 う。と。き。う。び。行。う。と。み。獲。と。面。う。よ。うち。騒。く。曾。外。う。に。損。つ。し。

さ  
きくとあらわしをもて流石より捨てて樹立の蔭いのちに立駐す。りかを廻は  
ゆくよりせば彼女の面おもて外るが如くあらわす。とそをかゝてと脱れぬ  
羅障らじやうをすとしも余あませあく。み世の如ひでよ。とめられどもと愛惜あいきせ  
狂ふ意の駒と裙はまと襷はたの縫ぬい衣樓と掲あわく様さま足掛あしがけをす。  
ありうど登る在明の月を背むかえまきを記。障子のまゝく立在へて曉方あけがた  
達の声が如くと寂莫さびしき。オ三郎さんらうは信しんと見え。障子さうじによつる女の聲  
髪かみをすく辛からく正ただく。駒こまを冤鬼怨みのきと稱めいり。刺苗さざなみがうと  
ゆく。物ものと壁かべと壁かべと打揮うちく。大喝だいかく一声障子を  
蹴け風かぜき透とおととふ孤坐こゑざと。駒こまの乳うぶ乃の下くだよ。蛭ひびき巻まき遍まんてぐまと  
刺ささく苦くると叫さけび。さと潰つぶる鮮血鮮紅と廻まわく倒たたきかじ棟とうの榦榦頭かしらゆすりて  
縫ぬいとあらわし息いきをもぐよがく小ワタ。オ三郎さんらうは欣慈きんしと刺苗さざなみを放はなせ。モ  
知識ちしきの活か動どう一いつ鳥とり違たがひ。活駒はまくまと惱うなづきと妖怪ようけハ。駒こまが真まことの冤鬼怨みのきうらじ。祇ぎ羅らを  
化かす姫ひめ。かがうれ奴やつと妻めを惱うなづき。とそ安あくね。本體ほんたい放はなせ。モ  
罵ののる声こゑと尖とがく。拔ぬとらんとくる瘡うずき。推しのかしのく息いきを吹ふき。よめの人才ひ  
三のゆ。コダガ小川おがわ投なげふ。元もととありひらひえん。りよまで不思議ふしき生存せいじゆし。  
そのとく然しか今いま又またと面おもてを取とる所ところ。親おやは垣はき一いつ圍まいの早瀬はやせの  
水み住すち。方ほうへ復塚かみすと推流すいりゅうすとらうと比ひままと父ちちが使つかひ。小廻こまわ山さんと  
救すくひ。親里おやさへ歸かり。身みと情じやうの械いがとうげうげきく。否いとつららぬ相あい隨つづ鄙びの  
住居すみ。親里おやさへ歸かり。身みと情じやうの械いがとうげうげきく。否いとつららぬ相あい隨つづ鄙びの  
被ひ丸まる小袖こまき。鄰となりの敵てき。身みと情じやうの械いがとうげうげきく。否いとつららぬ相あい隨つづ鄙びの  
お宿おくと。往むか方ほう定め。迷まよひ。通宵つうしやう走はる途との難なん。遂ついよ岐路きじゆ。引ひきき。  
文ふみ逐たどり。病びやく清きよの門もん。よ自じ身み術じゆ。おがれ打うちけつ。忽こつ地じ叫さけ。立た

音小。又と。を逝る。かう。と。座あらへ。岐義。と。が。弁。額。破。と。も。の。瘞  
きと。ど。と。父所。うり。と。墓。と。息。と。宿。まう。と。妻。と。ひ。と。良人。  
つ。よ。あ。う。あ。じ。恨。う。と。丈。と。害。と。大。罪。つ。と。脱。え。と。コ。う。人。  
み。の。告。圓。の。法。則。と。任。せん。と。ち。定。め。真。夜。中。る。と。と。昇。る。月。小。送。う。れ。と。あ。  
ま。や。る。養。父。の。宿。所。障。子。よ。う。る。入。熟。へ。飽。う。と。別。と。一。才。三。の。ゆ。ア。す。く。に。  
す。と。羅。科。を。辱。も。忘。と。く。審。と。否。る。銀。瓶。へ。現。劍。の。山。夫。殺。一。乃。天。罪。ハ。誓。は。  
襖。襖。の。櫻。衣。模。様。の。駒。の。背。よ。乗。り。下。き。巨。刀。の。鎗。の。精。と。する。宣。土。乃。  
首。途。か。く。だ。り。驛。路。の。餘。の。勝。裡。の。席。消。ぬ。後。の。惡。名。不。便。と。も。逃。て。  
一。遍。の。回。向。伏。憲。と。を。と。ソ。の。展。り。と。額。の。き。と。忽。地。変。り。と。緯。米。と。う。  
オ。三。郎。ハ。忙。然。と。拿。む。る。瘞。瓶。拔。と。り。原。本。ハ。駒。へ。ワ。ま。で。と。存。命。て。復。  
塚。う。る。岐。義。と。や。う。え。と。方。と。任。い。と。ア。ト。モ。犯。セ。一。罪。の。説。ち。と。今。う。が。モ。  
捨。り。と。刺。革。と。不。使。う。且。と。ソ。声。や。ひ。て。母。小。桔。梗。ハ。ト。と。泣。て。走。り。出。而。  
燭。絶。揚。て。縁。敷。と。鮮。血。と。金。具。と。倒。と。る。お。駒。瓶。又。ま。ば。仰。の。く。と。ま。と。公。  
ナ。ト。と。る。絆。ぬ。樹。檣。の。あ。る。と。入。の。け。り。ひ。く。間。柴。ハ。岐。義。然。肩。が。け。と。  
縁。瓶。ち。く。進。と。入。尾。花。ゆ。人。キ。う。と。び。き。と。ゆ。五。月。脩。ハ。岐。義。が。母。親。と。月。の。  
下。院。と。長。旅。と。く。お。駒。と。の。の。然。る。志。と。と。と。と。と。と。と。と。世。ゆ。の。  
漁。水。が。う。と。う。と。と。と。岐。義。が。正。る。と。と。と。と。と。里。人。ホ。が。告。う。然。ゆ。く。お。人。事。が。と。  
俄。頃。の。騒。劇。と。宿。と。と。と。と。外。ま。う。桃。配。野。死。ら。う。と。と。と。道。次。と。と。子。岐。  
義。が。倒。と。と。と。死。と。と。活。と。と。活。と。と。活。と。と。活。と。と。活。と。と。活。と。と。活。と。  
旅。と。  
今。般。の。言。れ。と。

角を責め、心挫して痛い。守護方こそ定くうと岐嶽、赤水とい、半房  
あり。親方の愛女の中元を殺すハトキ色。迹臭くじの妹使の相澤良人と  
つらひ物休ほ。許しと亡骸も。椎下と著て泣沈め、岐義ひと面目みて  
頭を低くつねり。折丁をあと、白木屋諸平が櫻の棒を被さる。樹立の音  
頭豆玉。やまと尾花才三郎。こぶ故主うる一角どひ。汝が又よ圖書せよ。見  
い駄ハ汝又殺さる。妙あぐーと云ひてひづけを。夜るべ、駄が冤鬼のことを  
世の風声、幻ううとぞ女兒が面殺。又年くやとく。十日あきる。夜ゆる母よ  
潜びへ。今又お駄がまことの枉死。累る怨を観念せよ。と敦園猛く罵れ。  
オ三郎ハ伊多あへど。ひくやと刀と把て立向んと見るれば甲夜よ宿匪  
行儀的必忽然と立せよ。庭へ肉りと念はれり。勢ひ悍く手揚へる。諸平が  
棒を打落せば、駄がたるをト信とアキ。やまと舞松。汝が死るで在々と後諸本  
居え入へまうじ。とぞアヘん和主が西個の子死殺ぢ。和主が公の劍う。十七年  
まをつ凡和生合殺の发生す。こぶ又謀殺殺へること。因果のそぞろは  
その子とちやうつ利刃あるよ。こと死家み傳バ。ことをもとく拂ふる。民が  
辛の食残終も。人か人智の及ぶよ。かくも天の冥罰昭す。ことよ善報  
あるのそぞろ。岐嶽が又復市へ服うて獄屋み守す。丈ハが兄株義も  
あるがさうて命死隕ぢ。縛ふる和主が西側より配と云輪回真報脱毛  
和主へとぞ久の後妻芥川義ひと女児を苦しき。株義が才文八又詫歎きて  
彼おが死後す。その奸淫と壁下と刺お駄と復市が一子政義が大暴れ云  
号ぢ。舊妻尼花生よ殺さに。今生の業因のと遠く前身とぞ矣。

當初某月角六日因果塚の血を祈る。被一角を擧ふ起り。牧村傳  
禪と柏芒寺の再興と。とどまつて小事うきよ。さるふたりと塚の鬼時と。  
生と撃木破乃郡司が後家谷折ひ。又口村の斧とすりまね。谷折の二字を  
引ひくと。則オロの次方とすり。柏芒寺の悪僧。午句坊ハ諸平が女児  
駒とすりぬ。午と馬ハ和訓ひ。午句の二字を入アキヒバ則ヒ。駒とる。  
独孝子木三郎ハオ三郎よ生を撃す。さきびとをあひ。木二郎ハ母と繼父と  
連え。偷兒よ打扮して。親と捕らひ。午句坊が邪慳乃刃と右の  
腕を落す。その形孤象アミ。木の字は右弑打落すと二郎の上に  
冠す。オ三郎とすりふあひ。やこの故よ午句坊。自木屋を駆へ  
オ三郎死墓へどどとむあひ。谷折の斧と憎とく。且を患苦絶む。ハ  
断岐義と祀る。まく夫と害せ。罪へどとどり名生リテ木二郎。オ二  
郎よ撃生トハ亦是前世の惡業。トす。人と念と疑と。謹て聽ひ。せよ。  
むし柏芒寺よ支山林中と。西個の沙汰あり。林中ハ住持午句坊  
モタル。支山ハもと。禪く。午句坊も禪く。寝の中よ縊殺。機密漏と。りと  
つ。支山強ひ。酒と醉。林中且く戦ふ。午句坊よ。瘡痍と負ふ。  
又。林中を殺す。と。死す。と。直す。逐電考。と。と。後道路。と。食死す。今  
倒す。死す。と。死す。と。直す。倒す。と。午句坊。と。か駒と犯す。  
との因と縁。と。死す。と。支山の二字ハ岐義。う岐とす。午句坊。と。か駒と犯す。  
女房。廻本城。打罵す。却る駒。と。額破。と。身。勿地。と。倒す。と。駒。と。犯す。  
死せす。と。死す。と。支殺の罪人。と。名。告す。ぬ。又。林中の二つの水瓶。中よ。と。殺す。  
沖水。支山の岐義。と。午句坊。す。か駒。が。内。よ。狂死す。と。前身。不。未。と。殺す。  
師の惡僧。よ。傷け。と。罪。悪。よ。よ。の。う。と。と。間柴。と。拾ひ。と。金。石。乞

宿平

的  
心

才三郎

おじよ



兄を推  
果を説  
大團圓

まなべ村吉

トトロ



諸平が不正の財今と至るを復市が寛と貰ふよ仙くとども。畢竟の約か  
故なりく恩義あり世婦欲要は是禍の水原えの諸平が前身の柏芒寺の  
基する野上の松君柏毛之糾平卿は別れ惜き恨むて尼よりして伽藍の墓衣  
周ひ毛ぐと愛惜の雲霧霽晴生と邪慾の諸平を舉り。かく諸平が因果  
縛る。縛どぬくゆく。一旦富人とうりし原彼淺は柏芒寺の散物、五  
りつゝう。ふく柏の一字代分き。是則白木也。彼主旨大八ハ前生玉妻客  
祈と午句坊は偷きてる。白徒不破郡司へ不破の不の字の右のへと。一冠毛  
夫ども。ハと破の字の声相近し。おひえよ前身は妻として女夫婦へ則。奸夫と  
う。淫婦どうて因果塗にて自滅せり。ごそみ初伏あるとえ就中各折合ひ  
てま。羅連こそ死りく又舊の空へ屍と返せり。差支悲」にくふ。又の前身へ彼柏  
毛より慕ひて歸洛を參ひ。是後前圓司糾平之今テ謀めどゆく。糾平の乳  
糸は薄金とく。又彼復市と株流が前身ハ夏柿珠倉と名をす。糾平卿の  
老黨主の糾平が柏毛と京洛へ俱せて仰。糸争ひ棘く苗やく。柏毛と  
との主役と殊えよ密よ。さとくばこづ入牒めが。このゑを済まで諸平は奪れ  
穢夫復市株流ハ疑りく狂死せり。この件の柏毛が嫌としてる前身れ怨は  
う。うともひうけ。希死と小隕へ。彼糾平主役ハてせる隠匿す。と  
つゞく。主へ食言。妻よあ死なせ。家臣ハ最初は諒じて。後よとま  
止め。過失ようて東のどく。一婦人の怨もく。善ふらは善報あり。惡  
みへ必悪報あり。小善報あり。太よ善報あり。小悪報あり。十倍たじと  
悪き報あり。生三世三うくの如し。安とことわらふそる。只有ぐれの妻子本二郎  
前身の功德ようて。才三郎と生變り。地方をあひ不破郡の目代。けあう。  
か駄然退て。活駄と與る。是は宜。翁が馬よ育。夫萬物ハ一馬で馬の外ひよ馬

き。禍福へ故より定主は善。禍と退り。善以福と迎す。又何ぞ疑ん。只才徳。因縁の。因縁うなよ便く。是れどこそと又縁故あり。當初芳角六へ因果塚の鬼。又媚牧村。傳つて云々。要す。是れよし。塚の鬼。牧村生を怨つて。どどと遂にそのほど泊ま。かくこの名。才徳。因縁。因縁塚の祈子。一角と夢す。未だび。急地。退糧。が物を捨て。こ豆がも。因縁塚の坎へ落つて。みるかの鬼の祟。あらま。才徳。勇義の健と。雄うりしう。この時。毛。毛。毛。毛。只彼硯を愛せ。遂に崇小金錢。墮ち。尾花。則芒。柏の白木。お祭り。結び。又柏芒寺の因果え。かくひ。と。数百年前死。死。死。又人の胎。宿。あら。生きあるの程。仏說の。前後身俗。所謂再来。必因。あり。縁。あら。生。する。もの類。若。恩。忘。報。も。づく。古人。暗合。もろ。と。あり。彼。駒。が。生。と。下。掌。紙。披。ひ。前生。女犯。成。を。破。て。あら。の。よ。下。そ。く。そ。の。掌。と。あ。る。虫。晴。蚊。や。く。亦。是。直。の。晴。蚊。よ。ゆ。と。書。件。の。塚。の。鬼。午。句。坊。谷。折。ホ。と。今。の。お。駒。斧。ホ。と。同。根。介。身。く。う。ね。ど。更。よ。因。果。残。を。絶。と。ぐ。と。暗。合。も。ろ。ぐ。如。一。か。く。ぶ。お。駒。が。亡。骸。と。彼。穴。へ。返。し。埋。ハ。怨。灵。ど。よ。得。脱。と。永。く。障。尋。あ。く。づ。と。も。これ。不。思。議。よ。三。年。以。來。台。詹。寺。の。師。の。教。戒。受。く。と。如。是。我。聞。靜。と。匈。月。裡。乃。月。と。可。い。と。終。く。今。生。後。生。と。照。下。と。這。個。乃。因。果。件。の。如。一。亦。復。約。と。と。と。張。り。べ。

第一 白木猪平。前身。美濃尾山柏芒寺岡基女僧柏手  
第二 久口蝶。前身。美濃前国司在原行平。小名  
第三 猿支復市。前身。在原行平卿家臣夏柿某  
第四 猿支株藏。前身。在原行平卿家臣珠倉某  
第五 久口斧。前身。不破郡司鬼妻谷折

第六 主旨大八

前身 小廻岐藏

前身

不破郡司

第七 前身

柏芒寺沙弥支山

前身

柏芒寺沙弥林中

第八 前身

柏芒寺惡僧午向坊

前身

柏芒寺惡僧午向坊

第九 前身

白木屋阿駒

前身

白木屋阿駒

第十 尾花才三郎

前身

孝子本二郎

孝子本二郎

もぐくこの十人ハ十鬼の賓主テ。或ハ餓鬼畜生トコトス。或ハ修羅人天ト流れるセロ。

親子岐翁親子ハ醉がて。醒るがて。りう共々嗟嘆<sup>モ</sup>。感涙坐<sup>モ</sup>禁め。當下諸平ハ圓<sup>モ</sup>。目眞揭赤め<sup>モ</sup>鼻うらう<sup>モ</sup>善知識の説法<sup>モ</sup>。ちめがこころの穢汚<sup>モ</sup>と洗き。はトやく覺<sup>モ</sup>二世の惡業<sup>モ</sup>。そよごみへト宿ど尾花<sup>モ</sup>。恩残<sup>モ</sup>りつて<sup>モ</sup>復<sup>モ</sup>。女兒お駒<sup>モ</sup>今<sup>モ</sup>殺<sup>モ</sup>天<sup>モ</sup>を天の責<sup>モ</sup>。葉松法師

岐翁<sup>モ</sup>がふ小<sup>モ</sup>と<sup>モ</sup>親の仇入<sup>モ</sup>。ナホ首殘<sup>モ</sup>落<sup>モ</sup>。孝養<sup>モ</sup>ふ偽<sup>モ</sup>。と<sup>モ</sup>十惡<sup>モ</sup>消滅<sup>モ</sup>。坐<sup>モ</sup>組合掌<sup>モ</sup>。的<sup>モ</sup>法衣<sup>モ</sup>袖<sup>モ</sup>あつ<sup>モ</sup>。善哉<sup>モ</sup>。懺悔<sup>モ</sup>。五逆<sup>モ</sup>。而<sup>モ</sup>慈<sup>モ</sup>。今恩残<sup>モ</sup>。怨<sup>モ</sup>。守<sup>モ</sup>。守<sup>モ</sup>。守<sup>モ</sup>。守<sup>モ</sup>。守<sup>モ</sup>。著忽地<sup>モ</sup>。ちくろ<sup>モ</sup>。といふ声<sup>モ</sup>現回陽<sup>モ</sup>。推用<sup>モ</sup>。折戸口<sup>モ</sup>。守<sup>モ</sup>。乃<sup>モ</sup>。と<sup>モ</sup>。ひぬ。牧村長通<sup>モ</sup>。呼門<sup>モ</sup>。右近大夫義龍<sup>モ</sup>。後者<sup>モ</sup>縣<sup>モ</sup>。入<sup>モ</sup>。退治<sup>モ</sup>。スグト<sup>モ</sup>馬<sup>モ</sup>。似<sup>モ</sup>似<sup>モ</sup>。盗賊<sup>モ</sup>。彼此<sup>モ</sup>。捕<sup>モ</sup>。民<sup>モ</sup>。と<sup>モ</sup>。す。折<sup>モ</sup>。一個<sup>モ</sup>。修驗者<sup>モ</sup>。途<sup>モ</sup>。あく。か<sup>モ</sup>。馬<sup>モ</sup>。推<sup>モ</sup>。守<sup>モ</sup>。守<sup>モ</sup>。

あそくやうびや前圓司時頼藝の落胤法師もうろて的心とよ今夜尾花才  
三郎が宿所スアム。直よりゆゑて對面をす人必圓又福あぐんと告ぐるどま  
忽無と形へ消くさくなく少た緯奇異うづどを据わく。うちも止づれ  
うう後、曹づれひなぐれとく。この門傷又馳來つ。緯い姫つむじ小笠り。覗  
くの法師の智惠活潑むべーの行基弘法はどもく劣ふをあらば。且つ  
緒角の比尼系也。頼藝朝臣よとく肖く。彼的心もあくとぞ。母を  
的ひ礼儀正しく食道則時が児うり。こぶ母ハそのちめ。頼藝の妻うりき。  
懷胎く緒の毛足赴弘農支牒サヌ帰テ後食道戒産一とモ。母二人をす  
方まくしむと。こそ戒もよし。台詹師の海よとく。不思議ニ害  
又とおきス加え頼藝ハ陸奥ヨリ率去セリ。送骨戒斎のひととソワシバ。  
迺汝みと下さると。此度ヨリ師の賜アシ白骨ハ院袋の裡ヨ赤てひど  
ゑ然也。義龍ハ床ルトナムキス。恭々答礼。時殿ハレアト。當園り  
守護の事。武運サノヤ傾れて子孫沈没ノ由ト。戦國の慣ひ是非  
及び。緒コガ又道ニハ情うこす戒逐ふと。十八郡ハ彼の賜なり。ソラ  
舊恩残仇ヌモギ。今トアレ還俗あり。富田の城と進ム。と叮嚀  
勤も。的ひ戒うち掉く。時が子孫ハヒ色のとすと。不近圓又有りと  
サハ後又叫起る。やく。還俗のゆハ本意スアラジ。と回答をうけひく  
丸をスミシ。義龍再で。ちく。加藍と建立。當郡と坊料ス。進ム。セキ  
り。身を受だ。只金山彦の神社頼破の修復と。實父母繼父の墳墓の地と。坊  
賈。諸平グ舊西。免。免。とえの戒のと。アハ。義龍またく感佩。そ  
く。然許容。猛。指。山の觀を取。事じく。こと戒的。心。委仕。主役  
帰城。去。アハ。アハ。的。心。件の硯。と。駒。が死骸。と。尾山の空。返。敵。

再び塚墓築せど。別々墳墓の地と擇く。頼親の白骨と埋葬し。三世乃至  
母有縁の亡者の為小石塔婆を建立す。大施餓鬼と興ひて。かくその菩薩と  
吊ひぬ是より先岐義親子へ出家をやく。的ひの丈子又やく。白木屋猪重  
資財と散く。貧人と賑ふ。市鄕を毀く。的ひの菴室戒修ほひ。病て剃髪  
をやく。的ひは事る小廢風頓に平愈せり。かく奇特よ。キドク。煩惱の  
垢と洗ひ流す。どうく尾花が安否参訪ひ。過東く。ゐわゆり。莫  
逆の友かぞう。こうとよりとく好事のり。塚橋の一名。和睦橋と喚做す。

ふくら縣の年経て。お花のくふを。こどよ仙くろ物語ゆ。ぞき然安永  
四年の秋。昔八大との義本支曲。例りしる。世俗とく。あるや。どく。尾  
ふとかる奇談ありとく。まことと云向も質茎。毫走。まく書をく。と  
かく。的ひ法師ハ。清度の慈雲圓中。又蔭住。良賛合仰せざるふ。尾

○作者が家傳の神女湯へ第一のみちた妙茶。婦人諸病乃良劑。す。  
并精製極品の奇應たつぞの妙茶。功能茶葉料取次所まで因。

第四の巻。書載。ひろめられて年数を。功能抜群。うるよ  
ゆく。例。こ盤昌仕。鉢と。然や。そかく。うん。江戸元齋町中坂下。南側四方みを。高瀧澤欽白  
まく。こく。生すを。とす。

### 馬琴画賛の扇

江戸神田通禪町 柏屋半藏方  
大坂心齋橋筋唐物町 河内屋太助方

### 美濃舊衣八丈綺談卷之五

編述 曲亭主人稿本

總卷淨書

千秋仲道騰寫

畫五 北嵩重宣筆

繡像剖劂

朝倉伊八郎刊

○近刻出像圓字小說全本五卷

山青堂閑版

義男の名氏ハ淀廻櫛の由来 馬琴著 と額貝の役者を表すが、筆ふきびとひからで  
は衣裳御前七條法語

節婦の終焉ハ鯉塚の縁起

この獄定後革の行進向と至るい事と甲戌の冬壬午造嘗

道二翁道話 篇十八冊 算法指掌大成 一冊

鳩翁道話

十八冊

月令博物鑑

十六冊

二十四孝繪抄 前後二冊 鴨左秘錄

一冊

陰鷙文繪鈔

二冊

茶家醉古集

五冊

孝女操草

三冊

通俗武王軍談

二十冊

繪本楠公記

三篇

三十冊

通俗吳越軍談

十八冊

大坂書林

本町通心齋滿東入

河内屋真七板

